

令和 5 年度事業報告について

文化庁連携プラットフォームにおける令和 5 年度事業報告について、別紙のとおりとする。

「文化庁京都移転記念事業 Opening Celebration 「きょう ハレの日、」」の開催結果について

□開催趣旨

文化庁京都移転を記念し、日本の美しい自然や四季、大切に育まれてきた文化など、未来に伝えたい「日本の美と心」をテーマに、地元京都が、多彩な日本文化の魅力を広く国内外に発信する。

□主催

文化庁連携プラットフォーム

□事業概要

<記念式典>

日時：令和5年9月8日（金）開場 16 時、開式 16 時 30 分（1 時間程度）

会場：ロームシアター京都 サウスホール（京都市左京区岡崎最勝寺町13）

内容：○伝統芸能の披露～歴史と伝統ある日本文化の未来への継承～

（観世流能楽師シテ方 片山九郎右衛門氏による祝舞）

○主催者挨拶（京都府知事、京都市長、京都商工会議所会頭）

○来賓挨拶（山本左近文部科学大臣政務官、伊吹文明元衆議院議長）

○共同宣言紹介（文化庁、関西広域連合、関西経済連合会、文化庁連携プラットフォーム）

○記念演奏（ピアノ演奏＋合唱）

ピアノ演奏・アレンジ：都倉俊一文化庁長官

合唱：京響コーラス、びわ湖ホール声楽アンサンブル 計 91 名

指揮：津幡 泰子（京響コーラス／堀川音楽高校声楽指導）

ソリスト：秋山隆太郎（京都堀川音楽高等学校 声楽専攻 1 年）

曲目：「日本に生まれてよかった」（作・編曲：都倉俊一）

<記念コンサート>

日時：令和5年9月8日（金）開場 17 時 30 分、開演 18 時 30 分（2 時間程度）

会場：ロームシアター京都 メインホール（京都市左京区岡崎最勝寺町13）

内容：○京都市交響樂團による演奏 指揮：広上淳一 演奏：京都市交響樂團

○ゲストアーティストとの共演 指揮：広上淳一 演奏：京都市交響樂團

ゲストアーティスト：さだまさし、上白石萌音、ナオト・インティライミ、小林武史

○フィナーレ（記念演奏） 指揮・アレンジ：都倉俊一 演奏：京都市交響樂團

<府内各会場>

日時：令和5年9月8日（金）、9日（土）

内容：府内3会場（岡崎公園（京都市）、島崎公園（宮津市）、萬福寺（宇治市））で、記念式典等のパブリックビューイングのほか、京都・関西の文化を体感いただけるイベントを開催。

□結果

総来場者数：19,200 人

（内訳）記念式典 400 人、記念コンサート 1,400 人

京都市会場 9,500 人、北部会場 4,500 人、南部会場 3,400 人

「京都・和食の祭典 2024～京の食文化発信～」 の開催結果について

□開催趣旨

「和食；日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産への登録10周年及び「京料理」の国の登録無形文化財への登録1周年を機に、京料理や和食をはじめとする食文化等の魅力を国内外に発信することで、京都の食の魅力を体感し、次世代に継承することを目的とする。

□主催

文化庁連携プラットフォーム、日本料理文化博覧会実行委員会

□事業概要

<シンポジウム>

日時：令和6年2月25日(日) 13時30分～15時30分

場所：みやこめっせ1階展示場

内容：○主催者挨拶（文化庁連携プラットフォーム代表 京都府知事 西脇 隆俊）

○お言葉 彬子女王殿下、来賓祝辞 文化庁長官 都倉 俊一

登壇者 上記ほか、松井京都市長、田中京都商工会議所副会頭

○第一部 講演 テーマ：「食文化を通じた和食・京料理の価値について」

○第二部 パネルディスカッション テーマ：「和食と京料理の継承、食文化の未来について」

○「和食・京料理」等の食文化に関するパネル展示、京料理の名店による特別弁当の数量限定販売

○桂南光氏（京都府文化観光大使）によるトークショー

<京の食文化体験>

日時：令和6年2月24日（土）、25日（日） 10時～16時

場所：岡崎公園

内容：京都の料理人や学生らによる京都府産食材を用いた料理の販売、府内の食文化を発信するブース、石川県のブースなどを出展（飲食12、物販3、試飲・PR4）

□文化庁との取組

- ・パネルディスカッションへの都倉長官の登壇
- ・ユネスコ無形文化遺産への登録10周年を迎えた「和食；日本人の伝統的な食文化」や国の登録無形文化財への登録1周年を迎えた「京料理」、100年フードの取組などを紹介するパネル展を実施。

□結果

総来場者数：26,900人

（内訳）シンポジウム 300人、パネル展示・弁当販売 600人

京の食文化体験 1日目 18,000人（天気：晴れ）、2日目 8,000人（天気：雨）

令和5年度 文化庁連携プラットフォーム ワーキングの取組について

(1) 実施目的

プラットフォーム構成団体や市町村等が抱える課題や取組、考え等について、意見交換や情報共有を行い、そこで得られた意見を踏まえ、文化庁と連携した日本文化発信の取組に繋げることや、集約した意見を文化庁へ提案等することで新たな文化政策の立案に繋げることを目的とする。

(2) 実施結果

文化庁が京都移転を機に推進本部を立ち上げた「文化観光」と「食文化」をテーマとし、上半期に「文化観光」、下半期に「食文化」のワーキングとシンポジウムを各4回、計8回開催した。

【文化観光】

- R5.6.13 第1回ワーキング 出席者 61 名
「文化観光とは」(同志社大学経済学部 太下教授による講義)
- R5.7.6 第2回ワーキング 出席者 32 名
「現在の文化観光の取組や課題」(グループワーク)
- R5.8.4 第3回ワーキング 出席者 39 名
「市町村の文化観光の取組発表」(舞鶴市、亀岡市、長岡京市、宇治市、城陽市が事例紹介)
- R5.10.4 シンポジウム 出席者 95 名
「2025 年大阪・関西万博に向けた文化観光の推進について」
 - ・基調講演：「文化観光についての動きや取組状況について」
文化庁 文化観光推進本部事務局長(文化資源活用課長) 齋藤憲一郎
 - ・パネルディスカッション
「2025 年大阪・関西万博に向けた文化観光の推進について」
同志社大学経済学部 教授 太下義之
京都経済同友会 副代表幹事 池坊専好
文化庁 文化観光推進本部事務局長(文化資源活用課長) 齋藤憲一郎
ORIGINAL Inc. 代表取締役、タイムアウト東京代表 伏谷博之

【食文化】

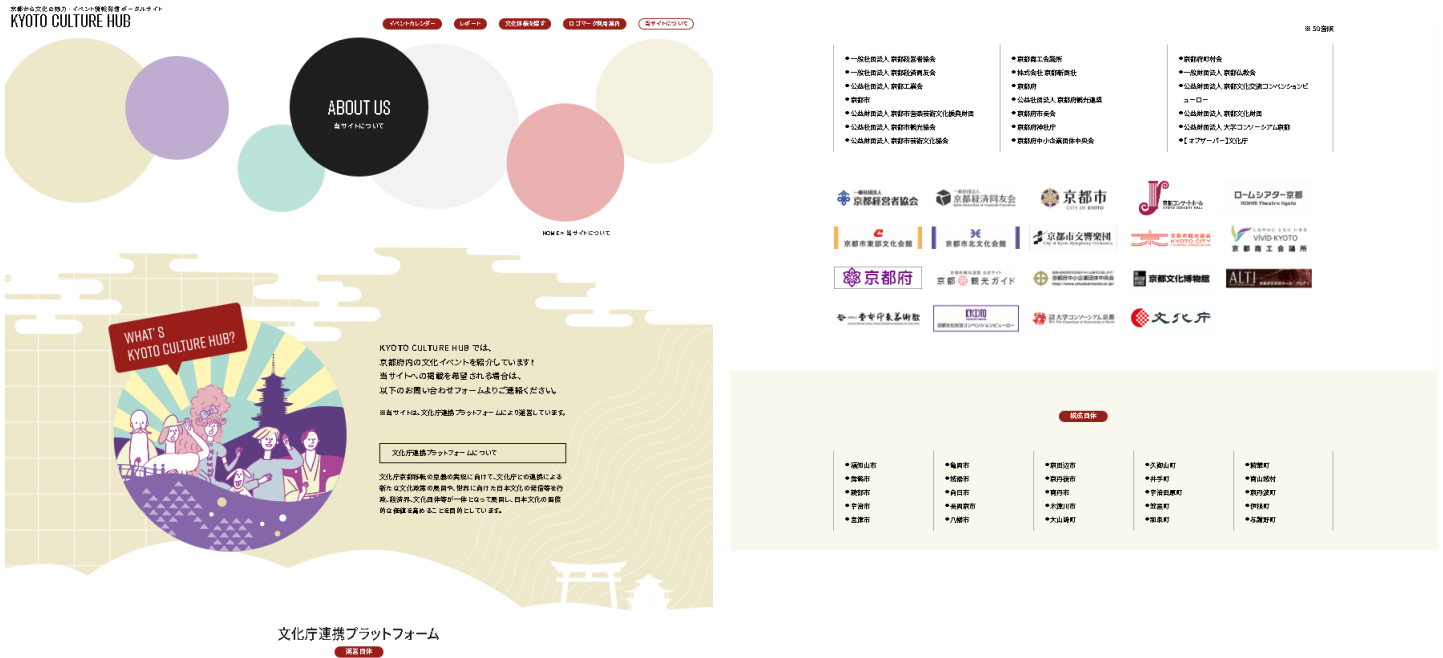
- R5.11.14 第1回ワーキング 出席者 21 名
「国の食文化政策について」(同志社大学経済学部 太下教授による講義)
「令和5年度「食文化ストーリー創出・発信モデル事業」採択事業について」
(京都府立丹後郷土資料館 岸岡館長)
- R5.12.20 第2回ワーキング 出席者 23 名
「国施策を活用した食文化の保存・継承」(ワークショップ)
- R6.1.29 第3回ワーキング 出席者 16 名
「100 年フード、食文化ミュージアムの登録拡大、食の観光について」
- R6.3.11 シンポジウム 出席者 74 名
「食文化による地域振興、食文化の保存・継承について」
 - ・講演：演題①「食文化推進本部の取組状況について」
文化庁 食文化推進本部事務局長 参事官 児玉大輔
演題②「食文化創造都市の取組について」
山形県鶴岡市企画部食文化創造都市推進課 主査 鈴木泰行
演題③「フードバレー構想の取組状況等について」
京丹波町総務部企画情報課 課長補佐 下村邦喜
 - ・パネルディスカッション：「食文化による地域振興について」
同志社大学経済学部 太下教授
文化庁 食文化推進本部事務局長 参事官 児玉大輔
山形県鶴岡市食文化創造都市推進課 主査 鈴木泰行
京丹波町企画情報課 課長補佐 下村邦喜

一体的な広報について

OKYOTO CULTURE HUB

・「文化庁連携プラットフォーム」が府内各地で実施する様々な文化イベント等について、ウェブサイトを通じて府内外に情報発信することで、人々がイベント等に足を運ぶきっかけを作るとともに、日本文化への興味・関心を高める機運を醸成することを目的として、令和5年8月4日に立ち上げ。

- ・ 8 ヶ月で 200 件超のイベント登録があったほか、サイトへは約 37,000 人のアクセスがあった。



○デジタルサイネージ

- ・府内 35 箇所を設置しており、9 か月で 160 事業を掲載。
- ・文化庁京都移転記念事業であることがわかるよう、フレームを導入し、統一感のある配信をおこなった。

